

令和7年度 京都市図書館 読書週間記念事業

司書のイチオシ

想いをはせる、未来をひらく

昭和100年の本

令和8年(2026年)は昭和元年(1926年)から数えて100周年を迎えます。青春時代を過ごした人には懐かしく、知らない世代には目新しく映る時代。本を通して昭和を感じてみませんか。

※「司書のイチオシ」は読書週間の特別企画として、毎年開催しています。
これまでに紹介した本は、京都市図書館ホームページでご覧いただけます。

京都市図書館 司書のイチオシ



【アイコンの説明】

① 前期(1926年～1945年):



② 中期(1946年～1969年):



③ 後期(1970年～1989年):



④ 全体・不明

:



絶滅危惧動作図鑑

1



藪本 晶子／著
祥伝社、2021年
(分類:049)

あなたはいくつ知っている？

今はあまり見かけなくなった動作から日常で見たこともやったこともない動作まで、100種類の「絶滅が危惧される動作」をイラスト付きでまとめた1冊。昭和によく見られた「テレビをたたく」や「カメラのフィルムを巻く」なども紹介されています。懐かしいと感じる人も多いのではないのでしょうか。平成生まれの私には不思議な動作ばかりで、家族に話を聞いて盛り上がりました。会話のきっかけにこの本をいかがですか？



(洛西図書館司書)

くらべる時代

3



おかべ たかし／文
山出 高士／写真
東京書籍、2017年
(分類:210.76)

目で解る「時代」

平成生まれの私にとって、昭和は、親が生まれた時代という程度の不明瞭なものだった。視覚的に「昭和」を感じたのが、この本である。例えば、横断歩道やガム、トンネルなどの身近なモノの「時代」による違いを写真で見ることができ、ぱっと見ただけでは気づかない変化も、文章で解説されているため、その経緯を学べる1冊となっている。1つのモノの写真が、あなたにとって今後、役立つ情報になるかもしれない。



(東山図書館司書)

インスタントラーメン誕生物語

5



中尾 明／作
宮崎 耕平／絵
PHP研究所、1998年
(分類:289.1)

斬新な料理！！

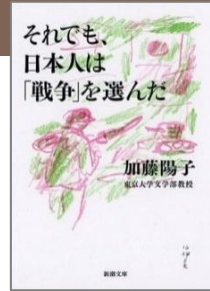
子どものころ住んでいた家の裏が、インスタントラーメンの工場でした。今や、インスタントラーメンといったいろいろな種類がありますが、初めて味わった袋ラーメン「チキンラーメン」も、会社のキャッチコピーの通り、美味しかったです。そんなインスタントラーメンを開発した、安藤百福のお話。百福は、図書館司書も経験したとか。阪神淡路大震災で、インスタントラーメンが重宝した話は初めて知りました。



(久我のもり図書館司書)

それでも、日本人は「戦争」を選んだ

2



加藤 陽子／著
新潮社(新潮文庫)
2016年
(分類:210.6)

避けては通れないあの戦争

本書では、中高生に向けた特別講義の形で、軍人や政治家のみならず全ての日本人の「選択」が繋がり、戦争に向かっていく様が語られている。私は7歳の時、沖縄で戦死した祖父の慰霊の為に初めて現地を訪れ、沖縄戦の写真を見た。それ以来、日本はなぜあのような戦争をしたのかをずっと考え続けてきたが、本書を読んでその疑問への答えを得られたような気がした。「それでも、日本人は戦争を選んだ」その理由を考えてみませんか。



(南図書館司書)

「サザエさん」の昭和図鑑

4



長谷川 町子／漫画
AERA編集部／編集
朝日新聞出版
2024年
(分類:210.76)

一コマ一コマが昭和の記録

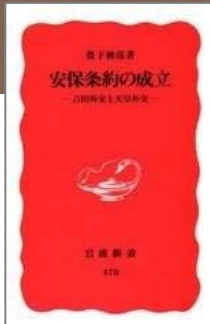
昭和100周年は「サザエさん」の連載開始80周年でもあります。そこで、「サザエさん」の漫画に、当時の写真と解説を加えたユニークな“図鑑”をイチオシ！漫画を楽しみながら、自然に昭和中期の日常生活を知ることが出来ます。連載期間が長いので、下駄姿が減っていくなど、変化の記録になっているのも面白いです。読んだ後、我が家の昭和を探してみたら、今でも使える黒電話がありました。昭和って丈夫ですね…



(移動図書館司書)

安保条約の成立

6



豊下 楯彦／著
岩波書店(岩波新書)
1996年
(分類:319.1053)

象徴天皇、外交に乗り出す

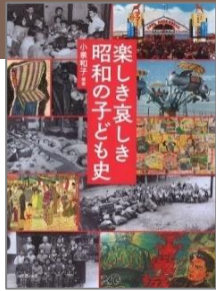
新史料に基づいて安保条約の交渉過程を検証し、吉田茂の巧みな外交の成果とする、高坂正堯の「宰相吉田茂」論に代表される通説を覆す。さらにその成立に当たって、昭和天皇の介入、すなわち二重外交が展開されたという、大胆かつ論争喚起的な仮説を提起する。その賛否に関わらず、戦後日本外交史研究で正面から取り上げられることがなかった天皇の「外交」という空白領域に切り込む本書を避けては通れない。



(久世ふれあいセンター図書館司書)

楽しき哀しき昭和の子ども史

7



小泉 和子／編著
河出書房新社
2018年
(分類:367.61)

今は遠きあの日常

「あの頃が懐かしい」
私たちの記憶にある昭和の思い出は、実に様々だ。家族、戦争、食べ物、玩具、催し物、憧れの〇〇…。
暮らしの変化がとても大きく、その懐かしさには楽しいものと、そして人によっては大きな哀しみもくっついている。
疎開先での暮らしや、紙芝居屋さんってそうだったの！？と驚いてしまう仕組みまで。
昭和のあの時、子どもだった世代の実情が満載の一冊。

(コミュニティプラザ深草図書館司書)



ちゃぶ台の昭和

8



小泉 和子／編著
河出書房新社
2018年
(分類:383.81)

食べる、暮らす、生きる

昭和の日本の家庭で食卓として活躍した、ちゃぶ台。ちゃぶ台は、日本人が何を食べ、どのように暮らしてきたのかを静かに見守ってきた。そこには、昭和の日本人が何を大切に生きてきたかの軌跡がある。年号や時代が変わっても、ちゃぶ台を囲んでいた人たちが消えるわけではない。食べ、暮らし、生きた人々から血や心を受け継いで、今の私たちがいる。幼少期にちゃぶ台のある祖母の家で育った私の中にも、昭和は生きている。

(醍醐図書館司書)



パンダが日本にやってきた！

9



日本パンダ保護協会／監修、朝日新聞出版
2022年
(分類:489.57)

昭和の白黒アイドル！？

白浜のパンダは中国へ帰り、今では上野でしか会えなくなっていました。関西人にとってすこし遠い存在となったパンダが、日本に初めて来たのは昭和47年の上野動物園。初めてのパンダ、そして待望のパンダの赤ちゃん……！本書では当時の熱狂を伝える写真や記事が収録されています。白黒写真でも愛らしいランランとカンカン、昭和のパンダたちを当時の人々と同じ気持ちで眺め、その時代のパンダブームを味わってみませんか。

(伏見中央図書館司書)



昭和少年SF大図鑑

10



堀江あき子／編著
河出書房新社
2014年
(分類:504)

空想・科学・冒険の時代

SF（サイエンス・フィクション）——それは作られた時代の風俗習慣を色濃く伝えるだけでなく、幼い日の私に当時の人々が思い描いていた「夢」の形さえも想像させてくれるものでした。百年後はどんな世界になっているのか？どんな技術が我々の生活を形作るのか？昭和のSFを彩ったイラストの数々を収録した本書は、センス・オブ・ワンダーに胸躍らせた、あの頃の少年たちの暮らしと夢とに思いを馳せることのできる一冊です。

(醍醐図書館司書)



昭和のお菓子

11



玄光社、2013年
(分類:588.3)

見て読んで話して楽しいお菓子本

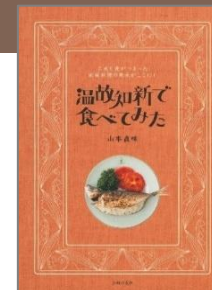
おいしくて、食べると幸せな気持ちになれるお菓子。この本では、昭和に生まれた様々なお菓子が写真付きで紹介されています。発売当時のパッケージや価格もたくさん載っているので、当時を知る人も知らない人も、世代を超えて話に花が咲くこと間違いなし！誰もが知る“あの”お菓子の秘密や歴史も載っていて、おなかいっぱいになれる一冊です。お一人でも楽しめますが、ぜひどなたかとお誘いあわせのうえ、ご賞味ください。

(吉祥院図書館司書)



温故知新で食べてみた

12



山本 直味／著
主婦の友社
2013年
(分類:596)

モダンな料理は母の味

昭和初期の『主婦の友』に掲載された斬新な和洋折衷料理に魅せられた著者が、当時のレシピを忠実に再現、試食する食レポ本です。干物にマッシュポテトを詰めて焼く「干物のポテト詰め」や鯖にケチャップをかける「鯖のマリネー」など、奇妙な組み合わせに興味津々。
新しい食材や調理法に奮闘する主婦の知恵や工夫に、当時の食文化が垣間見える一冊です。

(コミュニティプラザ深草図書館司書)



純喫茶とあまいもの 京都編

13



難波 里奈／著
誠文堂新光社
2020年
(分類:596.7)

扉を開けたらタイムトリップ！

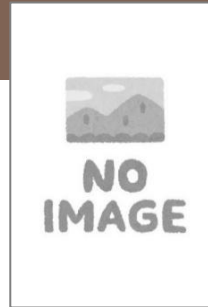
学校帰りやデートに……と、昭和生まれの父母からよく話に聞いたのが純喫茶。昭和を知らない世代にもどこか懐かしく感じられる外観・内装の写真とともに、当時の思い出の場所を今につなぐ店主の思いが綴られています。注目はタイトルの通り、コーヒーと一緒にいただきたい「あまいもの」！喫茶店を目的に、いつもよりすこし遠くに出かけたくなる一冊です。



(左京図書館司書)

また飼ってみたい昭和のペット

14



安斉 裕司／著
リヨン社
2006年
(分類:645.9)

昭和にもペットブームがあった！

私には兄がおり、小学生のころザリガニを飼っていた。それを見て「飼う」ことに憧れていた就学前の私は、庭に潜んでいたダンゴムシやバッタを捕まえて、箱やかごに入れて可愛がった。当時も今と同じく、犬や猫もペットとして人気だったが、身近な生き物が愛おしかった昭和時代。そのなつかしい生き物たちがたくさん紹介されている一冊。さあ、今日からあなたも、あの身近な生き物を飼ってみませんか!?



(下京図書館司書)

ホーローの旅

15



泉 麻人、町田 忍／著
幻冬舎
2002年
(分類:674.8)

昭和のおもしろ宣伝広告

私たちの身の回りに溢れている看板や広告ですが、昭和中期まではホーロー看板というものがありました。技術的に現代のように多彩な色を表現できない当時の看板は、色使いが特徴的で目を惹きます。今は消えてしまった商品やキャッチコピー、起用されている当時の人気俳優などに注目して見てみるのも面白いです。今では目にすることが少なくなったレトロな看板を味わってみませんか？



(吉祥院図書館司書)

新まだある。大百科 お菓子編

16



初見 健一／著
大空出版、2018年
(分類:675.1)

昭和発のロングセラー

私の生家は、1940年代から田舎で小さな商店を営んでいました。文具や日用品・食品と幅広く取り扱っていましたが、中でもお菓子類は種類が豊富でした。本書では、1960～70年代に発売された商品を中心に、今でも買えるロングセラーな菓子類が紹介されています。懐かしのお菓子から当時の思い出が蘇りました。皆さんの思い出のお菓子も載っているかも？発売当初のパッケージも掲載！今後もあり続けてほしいお菓子の大本拠。



(移動図書館司書)

昭和のレトロパッケージ

17



初見 健一／著
グラフィック社
2016年
(分類:675.18)

歴史の詰まったパッケージ

銭湯の洗面器のような配色に目を引かれて手に取ったこの本。読んでみると、昭和のデザインは現在も現役のものが多いことに気付かれます。昭和レトロブームもあり、昭和世代でなくても見たことがある人は多いかもしれません。時代ならではのモノ、子どもの頃お世話になったモノ、形を変えて今も身近にあるモノ…レトロなパッケージデザインから昭和を垣間見ることのできる一冊です。



(中央図書館司書)

最盛期の国鉄旅

18



谷川 一巳／著
イカロス出版
2021年
(分類:686.21)

時代を越えて鉄道の旅へ

かつて北海道から九州まで日本中に鉄道を走らせていた国鉄。この本には新幹線や蒸気機関車、果ては貨物列車まで、車両の写真がたくさん載っています。私のイチオシは東海道新幹線0系！昭和を象徴する最初期の新幹線の姿もバッチリ収められています。国鉄の時代を知っている方も、そうでない方も、昭和を駆け抜けた車両を見て、列車の旅に思いを馳せてみませんか？



(醍醐中央図書館司書)

手塚治虫とトキワ荘

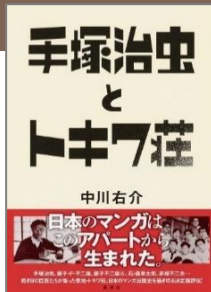
19

昭和に生きた漫画家たち

近年、日本の文化として注目される漫画ですが、どのように流行り、確立してきたか興味が湧きませんか？

私が漫画好きになったのは『ドラえもん』がきっかけです。その作者の藤子・F・不二雄をはじめ、手塚治虫に影響され、トキワ荘に住んだ漫画家たちの出来事や人間関係、当時ヒットした作品、週刊誌誕生の背景など昭和の出版業界についてまで幅広く紹介されています。漫画のルーツが気になる方にピッタリです。

(向島図書館司書)



中川 右介／著
集英社、2019年
(分類:726.101)

流行歌で振り返る昭和100年

21

音楽の世界へタイムトラベル！

音楽はいつの時代も人々に愛されてきました。そんな音楽で昭和以降の時代を振り返ってみるのはいかがでしょうか？当時流行った歌を聞けば、懐かしいあの時代を思い出すでしょう！あなたが生まれた年、両親が生まれた年はどんな歌が「流行歌」だったのか。また、その年にどんな出来事があったのかも知ることができます。思わず、ページをめくりながら口ずさんでいるかもしれませんね。音楽がつなぐ昭和100年をお楽しみください！

(下京図書館司書)



合田 道人／著
笠間書院、2025年
(分類:767.8)

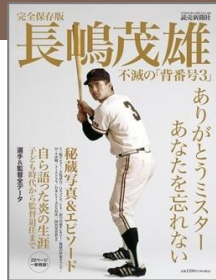
長嶋茂雄

23

ミスターの想い、次世代へ紡ぐ

「我が巨人軍は、永久に不滅です」——今年6月、日本プロ野球界の象徴的存在だった“ミスタープロ野球”こと、長嶋茂雄読売巨人軍終身名誉監督が、89歳で逝去されました。天覧試合でのサヨナラ本塁打・王貞治氏とのON砲・伝説のV9…昭和の野球ブームの火付け役となり、野球を国民的娯楽に押し上げました。栄光の背番号3—長嶋監督の“ファンあつてのプロ野球”の精神は、今も若き巨人軍の選手たちに引き継がれています。

(岩倉図書館司書)



読売新聞東京本社
2025年
(分類:783.7)

昭和の笑顔

20

その時代とその笑顔

舞台は昭和38～51年の京都。新しいものが凄まじいスピードで増えていった、激動の時代に撮影された写真集です。写真に写る笑顔を見ていると、不思議とこちらもつられて笑ってしまうほどの力強さと、当時の生活風景がカラー写真に負けないほど色濃く見えて面白いなと思い、この本を選びました。当時の人たちは、目まぐるしく変わっていく京都の街で、いったい何を思いながらカメラに笑顔を向けていたのでしょうか。

(中央図書館司書)



伊藤 とのひろ／写真
井上 大輔／文
淡交社、2011年
(分類:748)

トトロの生まれたところ

22

どこかにある懐かしい景色を

私にとって昭和は見たことのない時代ですが、様々な作品を通してその空気感に触れることができます。「となりのトトロ」もその一つで、幼い頃から何度も繰り返し見ました。中でも物語冒頭の引越越し場面が一番好きです。隣人との最初の交流や新しい家や生活への期待と不安が描かれている場面で、木のトンネルを抜けた時のわくわく感が本書のスケッチにも見て取れます。のどかで懐かしい風景を柔らかなスケッチで楽しめる一冊です。

(久我のもり図書館司書)



宮崎 駿／監修
スタジオジブリ／編
岩波書店、2018年
(分類:778.77)

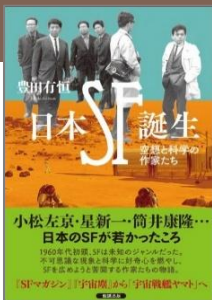
日本SF誕生

24

当事者の見た、日本SFの黎明

宇宙人、タイムマシン、ロボット……SFというジャンルが描き出す褪せない輝きは、私を幼いころから魅了してやみませんでした。本書は、中心人物のひとりである筆者によって活写された、日本SFの回顧録です。今も有名な才人たちが集い、活躍する様からは、昭和という時代の持っていた熱ささも感じさせます。現実がSFに迫る現代だからこそ、今一度昭和のサイエンス・フィクションに思いを馳せてはいかがでしょうか。

(右京中央図書館司書)



豊田 有恒／著
勉誠出版、2019年
(分類:910.264)



川又一英／著
新潮社(新潮文庫)
2014年
(分類:913.6)

ヒゲのウキスキー誕生す

25

どの時代でも情熱は心を動かす

昭和の時代を知らない私がこの本を手にとったのは、憧れのスコットランドが出てくるドラマ「マッサン」を見たのがきっかけだった。モデルは激動の昭和時代を生き抜き、日本初の国産ウiskyを作る夢を達成したニッカウisky創始者・竹鶴政孝とその妻・リタ。この本はそんな二人の生き様に魅せられた第三者の視点で描かれた伝記小説である。ドラマにはないリアルな障害に二人はどう立ち向かうのかぜひ読んでいただきたい1冊。



(洛西図書館司書)



小手鞠 るい／著
偕成社、2018年
(分類:913.6)

ある晴れた夏の朝

27

「過ちは繰返しませぬから」とは

広島・長崎に落とされた原爆の是非をディベートするアメリカの高校生のお話です。原爆の話をも日本ではなくアメリカで議論すること、そして現代の高校生が昭和の戦争について考えることにとても意義があると思いました。昭和は戦争を境に大きく変わり平和憲法を守ってきています。こんな風に話し合えば、世界中で戦争なんて起こらないのではないかと高校生に教えられます。途中辛い話ばかりですが、読後は平和な未来が望めそうです。



(北図書館司書)



武田 綾乃／著
宝島社(宝島社文庫)
2013年
(分類:913.6)

響け！ユーフォニアム [1]

29

アラフィフの青春時代

この物語のプロローグと中学校時代の自分が重なり、自然と物語に引き込まれていった。私も宇治市出身で吹奏楽部。昭和の私も平成の主人公たちも、時代が変わっても吹奏楽コンクールで金賞を取ることに情熱を燃やす思いは同じだと思った。また宇治の伝統的な祭りである「あがた祭り」が作中に描かれている。子どもの頃に何度も遊びに行った思い出がよみがえり、昭和にタイムスリップしたような気持ちになった。



(こどもみらい館子育て図書館司書)



窪美澄／著
新潮社、2019年
(分類:913.6)

トリニティ

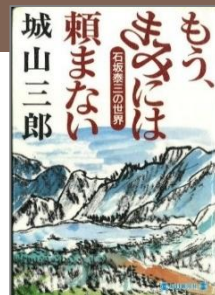
26

三者三様、女の人生

鈴子、登紀子、妙子。戦後、新しい雑誌編集部で出会った三人。戦争から目まぐるしく変化していく怒濤の社会を、それぞれの立場で生きていく姿が、鈴子の孫である奈帆の目を通して描かれる骨太な小説です。雑誌が、出版界が大きな力を持っていた、泥臭くも輝いていた時代。実は、別世界だと思っていたそんな時代が、自分と地続きであると気づかされるのですが、なぜか清々しさと力強く背中を押される感じがするのです。



(伏見中央図書館司書)



城山 三郎／著
毎日新聞社、1995年
(分類:913.6)

もう、きみには頼まない

28

万博を成功させた昭和のリーダー

真っ直ぐ、怒りっぽい、お茶目。相手が総理だろうと、マッカーサーだろうと、息子の上司だろうと言いたい放題。昭和45年の大阪万博を大成に導いたのはこんな人物だった。その名は石坂泰三。「何も無いのが最上の人生」と言いながら、頼まれたら即実行に乗り出す豪胆さ。ページをめくれば、胸のすくような啖呵。高度経済成長期の日本をリードした巨人の姿が、小説家・城山三郎の手で生き生きと描かれる。現代人物評伝の名著。



(西京図書館司書)



筒井 康隆／著
新潮社(新潮文庫)
2002年
(分類:913.6)

家族八景

30

S F ってなんでもあり！

S F 小説が空想科学小説、幻想科学小説等と注釈がついていた時代、昭和47年の作品です。精神感應能力を持つ女性がお手伝いさんとして家にいる。人の心がわかってしまうなんて、素敵でも便利でもなく恐ろしい能力で、世の中や大人の世界は怖いわと思ったのでした。S F がサイエンス・フィクションという枠では収まらない、何でもありのジャンルだと再認識させてくれた一冊です。



(左京図書館司書)



蒲生邸事件

31

平成の若者、昭和11年へ。

ホテル火災に遭遇した受験生・孝史。時間旅行能力者・平田に危機を救われ、命からがらタイムトリップしたのは昭和11年2月26日。今まさに、二・二六事件が起ころうとしていた…。学生時代にハマった宮部みゆき作品の一つです。太平洋戦争への端緒とも言われる二・二六事件に巻き込まれる中、個人は歴史の歯車に過ぎず、歴史そのものは変えられないという現実には孝史は何を思い、どう生きるのか。読み応え抜群、感動のSF小説。

宮部 みゆき／著
文藝春秋(文春文庫)
2000年
(分類:913.6)



(南図書館司書)



みかづき

32

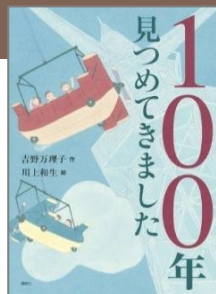
塾業界を切り拓く家族の物語

昭和36年、戦時中の公教育に疑問を持っていた大島千明が吾郎と学習塾を開くところから物語は始まります。塾の経営が拡大する一方、夫婦間、家族間の溝は深まっていき…。大島家3代を通して、時代にあった塾を築きあげる様が壮大に描かれています。学校教育が太陽なら塾は月のような存在と本書にあるように、私にも塾はそんな場所だったと思い返すことができた1冊です。

森 絵都／著
集英社、2016年
(分類:913.6)



(向島図書館司書)



100年見つめてきました

33

山上から想いをはせる

奈良県出身の私にとって、生駒山上遊園地は定番のお出かけスポットでした。より高いところからの景色が見たくて、飛行塔に何度も乗ったものです。その飛行塔が見つめてきた、昭和から令和までの時代の変遷を語るファンタジー。心優しい飛行塔の視点を通して、激動の時代を想像することで、平和の尊さを実感します。穏やかな日々がなんと愛しく幸せなことか。全世代の人に読んでもらいたい、優しく切ない物語です。

吉野 万理子／作
川上 和生／絵
講談社、2023年
(分類:913.6)



(こどもみらい館子育て図書館司書)



JR上野駅公園口

34

戦後日本と地方社会の光と影

終戦の年、出稼ぎのために故郷福島を離れた男はやがて上野駅に辿り着く。復興五輪に沸く街の片隅で、帰る場所を失い彷徨い続ける男の命を通じ描かれる戦後日本の光と影。死の瞬間に見た故郷の情景は哀しくも美しく、比類なき筆力で読者の胸に迫り、一人一人の人生の尊さを思い知らされる。福島風習と仏教的死生観を丁寧に取り上げ、繰り返し聞こえる山手線の音が、重いテーマを民話的に優しく包んでいる。

柳 美里／著
河出書房新社
(河出文庫)
2017年
(分類:913.6)



(山科図書館司書)



ももこの70年代手帖

35

今を生き、今を楽しむ

作家・さくらももこによる70年代を振り返るエッセイや対談など、筆者自身の昭和の色濃い思い出が綴られており、平成生まれの私からすると、知らないワードや事件、当時のブームやファッションなど、ついつい調べたくなる内容が満載で、昭和レトロの世界を垣間見ることができます。過去の暮らしや価値観に触れながら、令和という時代の多様な生き方を考えるきっかけを与えてくれる一冊です。

さくら ももこ／著
幻冬舎、2004年
(分類:914.6)



(東山図書館司書)



田辺写真館が見た“昭和”

36

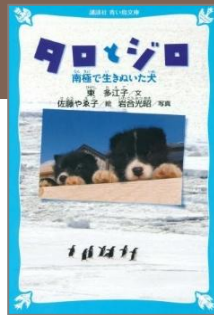
写真と文章で旅する昭和

田辺聖子さんの生家である田辺写真館を舞台に、戦前の昭和の庶民の暮らしや文化を描いたエッセイです。お見合い写真や子どもたちのスナップ写真、家族の集合写真など、その写真が撮られた時のエピソードと合わせて、当時のファッションや空気感なども知ることができます。田辺写真館で撮られた写真から、昭和の時代を生きた人々の暮らしに想いをはせることのできる一冊です。

田辺 聖子／著
文藝春秋(文春文庫)
2008年
(分類:914.6)



(北図書館司書)



東 多江子／文
佐藤 やゑ子／絵
岩合 光昭／写真
講談社、2011年
(分類:916)

タロとジロ

37

南極への探検

南極について調べる機会があり、タロとジロについてもっと知りたいと思った時に会ったのがこの本でした。児童書ではありますが、南極観測隊と一緒にいったカラフト犬について分かりやすく描かれているので、大人にも読んでもらいたい1冊です。今は南極に動物を連れて行くことはできませんが、当時は犬ぞりの活躍なしに探検はできませんでした。隊員と犬たちがどのように信頼を築いたか想いを馳せながら読んでみませんか。



(右京中央図書館司書)



辺見 じゅん／著
文藝春秋(文春文庫)
1992年
(分類:916)

収容所(ラーゲリ) から来た遺書

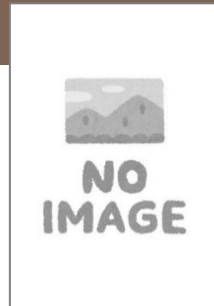
38

家族へと届ける思い

この本は、映画「ラーゲリより愛をこめて」の原作です。第二次世界大戦が激化した時代に生きた「山本幡男」という実在の男性の、ロシアの収容所(ラーゲリ)での日々について書かれたものです。捕虜として収容された日本人たちが、「いつかは日本に帰る」という希望を抱いて、極寒のロシアで生き抜く姿が書かれています。戦争が引き起こす悲惨な状況。二度と繰り返さないためにぜひ、読み継がれて欲しい本です。



(山科図書館司書)



竹西 寛子／著
新潮社、1996年
(分類:918.68)

「管絃祭」(『竹西寛子著作集 第1巻』収録)

39

軍都広島昭和

この小説を知ったのは、深夜ラジオのインタビュー番組でした。十六歳で被爆した著者は、「私」の広島を書きたかったと語っていました。母親の通夜に始まる物語の中で、動員女子学生としての生活や被爆から戦後の混迷の日々が、親しかった周囲の人々の回顧も交え綴られます。年に一度、家族揃って夏を過ごすならわしだった厳島。管絃祭とは厳島神社の祭礼で、御座船上で雅楽を奏でます。海を渡る楽の音が聴こえてくるようです。



(岩倉図書館司書)



中川 李枝子／さく
大村 百合子／え
福音館書店
1980年
(分類:E)

ぐりとぐら

40

絵本で出会う、懐かしい昭和

昭和100年の本というテーマで、私が最初に思い浮かべたのがこの絵本だ。森で巨大なたまごを見つけたのねずみの“ぐりとぐら”が、その場でおいしかすてらを作り、森じゅうの動物たちにふるまうストーリーにワクワクした。最後のオチもよくできていて、心をくすぐられた。昭和らしい素朴なイラストと文に、想像力、優しさ、賢さなど生きていく術がいっぱい詰まっている。これからも、ずっと愛され、読み継がれてゆく絵本だろう。



(久世ふれあいセンター図書館司書)



松本 春野／文・絵
岩國 哲人／原作
講談社、2015年
(分類:E)

おばあさんのしんぶん

41

優しい秘話

戦後間もない頃、家族を支える為に新聞配達をする小学生のつおが見つけた救いの光は、新聞を読ましてくれる老夫婦でした。月日は流れ、老夫婦が亡くなった後につおが知った思いがけない真実とは……。新聞を読まなくても情報は手に入り、隣人の顔も分からないことも多い現代ですが、人と人との繋がりがあった時代の温もりを感じられる、実話をもとにした絵本です。



(西京図書館司書)



レオ・レオニ／作
谷川 俊太郎／訳
好学社、1979年
(分類:E)

スイミー

42

読み返してみるのはいかが？

「国語で習った」という方もいるかもしれません。『スイミー』は昭和52年(1977年)、光村図書出版の教科書に採用され、現在京都市が採択している小学2年生の教科書にも掲載されています。独りぼっちのスイミーが小さな魚達と出会い、大きな魚に立ち向かうお話です。絵本では、教科書にはない美しい絵を楽しむことができます。昭和から平成、令和と読み継がれている『スイミー』。これからも愛され続けてほしい作品です。



(醍醐中央図書館司書)